

団体名：農事組合法人三留生産組合 園芸クラブ

代表者：後藤 基栄

所在地：福井県福井市三留町

〔ポイント〕

平成12年3月に「三留農業生産組合」として発足。14年11月に、39名で「農事組合法人三留生産組合」を設立した。

15年に大豆コンバインを導入、大豆の作付面積を拡大。17年にキュウリの露地栽培を開始し、キュウリの規格外品の有効活用を目的に、組合の下部組織「園芸クラブ」が18年加工場を整備。19年3月から生産した原材料を使用した納豆と漬物（キムチ）の加工販売を開始。特に納豆は、大粒のエンレイや青大豆を用いて、他商品との違いを明確にすることにより消費者から好評を得ている。主な販売先は、JA越前丹生直売所 丹生膳野菜、ファームサルート、福井市内Aコープ各店、生協ハーツ学園店である。またイベントにも積極的に参加している。

【活動内容】

1. 加工施設の整備

農産物の付加価値向上を目的に、平成18年10月に総事業費243万円で加工施設を整備し、納豆製造業と漬物製造業の営業許可を取得した。

集落内の8名の女性たちを加工活動の中心メンバーとし、納豆班、漬物班の2班に分けて活動していくこととし、他の納豆製造施設の見学、加工方法の改良を重ね、品質の向上を図った。加工方法のマニュアル化も行った。

2. 商品企画

三留集落の秋祭りの中心地の五位山（頂上で掛け太鼓を叩いて祭りの始まりを知らせる）から商品名を【五位山】として、販売価格を納豆100g150円、キムチ200g（後に180gに変更）230円に決定した。

3. 販売促進

平成19年2月から地元直売所を拠点に販売を開始。現在、近隣の直売所及び量販店合計10箇所へ商品を納めている。

販売促進のため試食販売、作り手の顔が見えるよう、商品PRに努める。

また、各種イベント等へも積極的に参加している。地元直売所で「納豆の日」にちなんだキャンペーンを企画・実施。商品に対するこだわりや生産現場の情報を盛り込んだPOPの作成、納豆を利用したレシピの提供などを実施。